

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3100413号
(U3100413)

(45) 発行日 平成16年5月20日(2004.5.20)

(24) 登録日 平成16年1月7日(2004.1.7)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 G 23/08

A 4 7 B 37/00

F I

A 4 7 G 23/08

A 4 7 B 37/00

A

5 O 1 F

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2003-271165 (U2003-271165)

(22) 出願日 平成15年9月12日(2003.9.12)

(73) 実用新案権者 303047687

有限会社カネマサ企画

鹿児島県鹿児島市千年二丁目4番13号

(74) 代理人 100105670

弁理士 梶 生長

(72) 考案者 宇都 孝昌

鹿児島県鹿児島市千年二丁目4番13号

有限会社カネマサ企画内

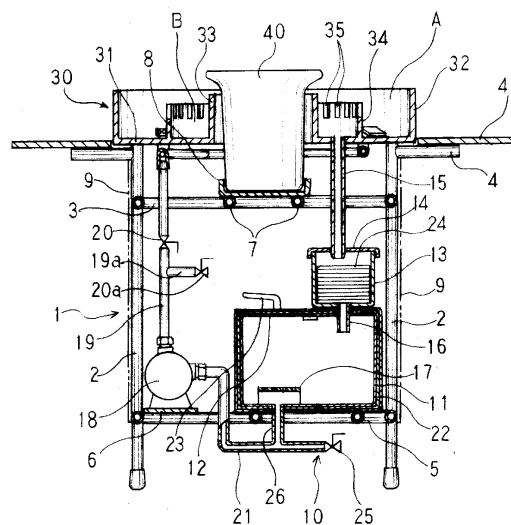
(54) 【考案の名称】 麺流し装置

(57) 【要約】

【課題】 麺流しと、バーベキューや鍋料理とを同時に行うことができ、しかも、使用中、及び、使用後の循環水を濾過して排水する。

【解決手段】 環状の仕切板34を、麺流し容器30の底板31に且つ麺流し容器30の側板32、33に対して同心円状に立設し、仕切板34によって、外側に麺流しレーンAを形成すると共に、内側に排水レーンBを形成し、麺流し容器30の内周の側板33によって、その中央部に焔炉40の設置スペースを確保し、複数のジャンプ台45を麺流しレーンAの底板31に配設し、水溜め槽11及び麺流しレーンAにポンプ18を介して連結された循環用給水路と、排水レーンB及び水溜め槽11に連結された循環用排水路と、水溜め槽11及び外部に連通する外部排水路とから循環水路を構成し、循環用給水路、循環用排水路、外部排水路にそれぞれ濾過器13、17を設ける。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

架台に支持された環状の麺流し容器と、該麺流し容器の外周の側板と内周の側板との間に同心円状に立設された環状の仕切板と、該仕切板と麺流し容器の外周の側板とによって形成された麺流しレーンと、仕切板と麺流し容器の内周の側板とによって形成された排水レーンと、麺流しレーンにポンプを介して連結された給水用の水溜め槽と、該ポンプに連結され、且つ、麺流しレーンに貫設された複数のノズルと、水溜め槽の水を、水溜め槽と麺流し容器との間で循環させる循環水路とを備えた麺流し装置において、麺流し容器の内周の側板によって、麺流し容器の中央部に焔炉の設置スペースが確保されるように構成されてなることを特徴とする麺流し装置。

10

【請求項 2】

仕切板は、麺流し容器の外周の側板、及び、内周の側板よりも低く形成され、しかも、仕切板には、麺流しレーンに連通する複数のスリット、又は、穴が形成されると共に、開閉可能な排水ゲートが形成されてなることを特徴とする請求項 1 に記載の麺流し装置。

【請求項 3】

麺流しレーンの底板には、複数のジャンプ台が麺流し容器において直交する二本の中心線上に略位置するように配設され、しかも、各ジャンプ台の傾斜面は、還流する水流の方向に対して若干上向きに形成されてなることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の麺流し装置。

【請求項 4】

ノズルは、各ジャンプ台の傾斜面の下流側に近設され、しかも、各ノズルは、麺流しレーンに形成された複数の給水口に嵌入された上下方向の嵌入部と、該嵌入部に連設された麺流しレーンに位置する水平方向の給水部とを有し、ノズルの給水部のジャンプ台側の端部には、ジャンプ台の傾斜面と略平行する傾斜面が形成されてなることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の麺流し装置。

20

【請求項 5】

循環水路は、水溜め槽、及び、麺流しレーンにポンプを介して連結された循環用給水路と、排水レーン、及び、水溜め槽に連結された循環用排水路と、水溜め槽、及び、外部に連通する外部排水路とから構成され、しかも、循環用給水路、循環用排水路、外部排水路にそれぞれ濾過器が設けられてなることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の麺流し装置。

30

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、麺流しと、バーベキューとを同時に行える麺流し装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の麺流し装置は、環状の支持板を有する脚立付きテーブルと、該テーブルの支持板の穴部に挿脱可能に挿入され、且つ、テーブルの支持板に支持された麺流し容器とから構成されている。該麺流し容器は、有底筒形状の水溜め槽としての内筒と、該内筒の上部の外側に、且つ、内筒と同心円状に設けられた有底筒形状の外筒と、両筒体によって形成された麺流しレーンとしての貯水部と、内筒の底部に連設されたポンプ室とから構成されているものが公知になっている。（例えば、特許文献 1 参照）。

40

【0003】

内筒の側板の上部、及び、内筒の底板には、複数の水戻し穴が穿設されており、内筒の側板の上部の水戻し穴は、貯水部に連通する一方、内筒の底板の水戻し穴がポンプ室に連通している。よって、内筒に給水された水は、内筒の水戻し穴を通して貯水部、及び、ポンプ室に給水される。

【0004】

50

ポンプ室は、内筒の内径と同一径で、ポンプ室には、貯水部に還流を生成するエジェクタ装置が設けられている。該エジェクタ装置は、複数のポンプと、麵流し容器の外筒に貫設された複数のノズルと、各ポンプ及び各ノズルを連結する配管とを有している。ノズルの給水口は、水平、又は、水平面に対して若干上向きになっている。

【0005】

そして、内筒に給した後、エジェクタ装置のポンプを作動してノズルから水を噴射して還流を生成する。この水流の中に、うどん、そば、素麺などの麵を流し込んで流動させる。

【0006】

この際、内筒の水が、内筒と外筒の貯水部とを循環することになる。即ち、外筒の貯水部を還流する水面、外筒から内筒の側板の上部の水戻し穴を通して内筒に排水されると同時に、内筒の底板の水戻し穴からポンプ、ノズルを介して外筒の貯水部に給水される。

【0007】

また、バーベキューをする場合は、テーブルの支持板から面流し容器を取り外すべく離脱させ、代わりにバーベキュー用焔炉などを載置する。

【0008】

【特許文献1】特開平10-234482号公報（第1-6頁、図1乃至図3）

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0009】

しかしながら、従来の麵流し装置の場合は、麵流しと、バーベキューや鍋料理とを同時に行うことができず、テーブルから麵流し容器を取り外す必要があり、煩雑であるという問題がある。

【0010】

さらに、内筒における循環水は、使用しているうちに汚れてしまい不衛生であることに加えて、該循環水を排水する場合には、排水路が麵流し装置には設けられておらず、麵流し容器をテーブルから取り外して、麵流し容器の汚水を外部へそのまま排水することになり、その作業に労力を要する。また、外部に排水した麵流し容器の汚水は、環境に支障をきたす場合があるという問題が生じる。

【0011】

しかも、流動する麵は、還流によって生じる遠心力と、水戻し穴との吸引作用とによって、貯水部の略中央部を回流することになるが、回転する水流は、一定方向の流動であるため、流動する麵は、その自重によって水底を流動することになり、水面近くを流動することが少なくなり、麵をすくうことが困難になる場合があるという問題も生じる。

【0012】

そこで、本考案は上記問題点に鑑み、麵流しと、バーベキューや鍋料理とを同時に行うことができ、しかも、使用中の循環水をきれいにすると共に、使用後の循環水を環境に支障をきたすことなく排水でき、さらに、流動する麵を水面近くで流動させてすくいやすくなった麵流し装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0013】

上記課題を解決するために、本考案の麵流し装置は、請求項1に示す如く、架台に支持された環状の麵流し容器と、該麵流し容器の外周の側板と内周の側板との間に同心円状に立設された環状の仕切板と、該仕切板と麵流し容器の外周の側板とによって形成された麵流しレーンと、仕切板と麵流し容器の内周の側板とによって形成された排水レーンと、麵流しレーンにポンプを介して連結された給水用の水溜め槽と、該ポンプに連結され、且つ、麵流しレーンに貫設された複数のノズルと、水溜め槽の水を、水溜め槽と麵流し容器との間で循環させる循環水路とを備えた麵流し装置において、麵流し容器の内周の側板によって、麵流し容器の中央部に焔炉の設置スペースが確保されるように構成されてなるものである。

10

20

30

40

50

【0014】

したがって、麵流し容器の内周の側板によって、麵流し容器の中央部に焔炉設置スペースが確保されるようになり、麵流し容器をテーブルから取り外すことなく、麵流しとバーベキューとが同時に楽しめる。

【0015】

また、請求項2に示す如く、仕切板を、麵流し容器の外周の側板、及び、内周の側板よりも低く形成し、麵流しレーンに連通する複数のスリット、又は、穴を仕切板に形成すると共に、開閉可能な排水ゲートを仕切板に形成するのが望ましい。

【0016】

よって、麵流し容器の外周の側板、及び、内周の側板よりも仕切板を低く形成することで、麵流しレーンから水が溢れ出ることがなく、焔炉の設置スペースへの浸水も防止できる。さらに、仕切板に形成された麵流しレーンに連通する複数のスリット、又は、穴によって、水溜め槽の水が、麵流しレーン、排水レーン、水溜め槽の間を円滑に循環することになる。加えて、仕切板の排水ゲートを開くことによって、麵流しレーンの水を迅速に排水できる。

【0017】

さらに、請求項3に示す如く、複数のジャンプ台を、麵流し容器において直交する二本の中心線上に略位置するように、麵流しレーンの底板に配設し、各ジャンプ台の傾斜面を、還流する水流の方向に対して若干上向きに形成するのが好ましい。

【0018】

そうすれば、麵流し容器において直交する二本の中心線上に位置するジャンプ台によって、麵流しレーンの四箇所において、流動する麵がジャンプ台の傾斜面によって水面近くに持ち上げられ、麵がすくいやすくなる。

【0019】

さらに、請求項4に示す如く、ノズルを、各ジャンプ台の傾斜面の下流側に近設し、さらに、各ノズルを、麵流しレーンに形成された複数の給水口に嵌入された上下方向の嵌入部と、該嵌入部に連設された麵流しレーンに位置する水平方向の給水部とから構成し、ジャンプ台の傾斜面と略平行する傾斜面を、ノズルの給水部のジャンプ台側の端部に形成するようにしたものである。

【0020】

したがって、ノズルを、各ジャンプ台の傾斜面の下流側に近設することで、ジャンプ台の傾斜面によって水面近くに持ち上げられた麵が、ノズルの噴流による水圧によって再度持ち上げられ、水面近くでの流動が維持されることになり、麵流しレーンを略水面近くで流動することになり、麵がよりすくいやすくなる。さらに、ジャンプ台の傾斜面と略平行する傾斜面を、ノズルの給水部のジャンプ台側の端部に形成すれば、ジャンプ台の傾斜面によって水面近くを流動する麵が水底へ流動しようとする際に、水面近くに浮上させることができる。

【0021】

加えて、請求項5に示す如く、循環水路を、水溜め槽、及び、麵流しレーンにポンプを介して連結された循環用給水路と、排水レーン、及び、水溜め槽に連結された循環用排水路と、水溜め槽、及び、外部に連通する外部排水路とから構成し、循環用給水路、循環用排水路、外部排水路にそれぞれ濾過器を設けるのがよい。

【0022】

この場合、循環水が濾過されて清浄化されると共に、外部排水が濾過されて環境にも悪影響を及ぼすことがない。

【考案の効果】

【0023】

以上説明したように、本考案の麵流し装置は、麵流し容器の内周の側板によって、麵流し容器の中央部に焔炉の設置スペースを確保できて、麵流しとバーベキューとが同時に楽しめる効果がある。

【0024】

また、麺流し容器の外周の側板、及び、内周の側板よりも仕切板を低く形成するようにしたので、麺流しレーンからの水の溢出を防止できる。さらに、仕切板に形成された複数のスリットや穴、或いは、排水ゲートによって、円滑な水の循環と、迅速な排水とを有効に実現できる。

【0025】

しかも、複数のジャンプ台を、麺流し容器において直交する二本の中心線上に略位置するように、麺流しレーンの底板に配設し、各ジャンプ台の傾斜面を、還流する水流の方向に対して若干上向きに形成するようにしたため、水面近くで麺を流動させることができ、より一層麺流しを楽しめる。

10

【0026】

さらに、ノズルの噴流を利用して水面近くでの麺の流動を維持できる一方、ジャンプ台の傾斜面と略平行する傾斜面を、ノズルの給水部のジャンプ台側の端部に形成することで、水面から水底へ流動しようとする麺を、水面近くに浮上させるのに効果的である。

【0027】

加えて、循環用給水路、循環用排水路、外部排水路にそれぞれ濾過器を設けるようにしたので、循環水の清浄化、及び、外部排水の濾過を同時に実現でき、人及び環境に良好な麺流し装置が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0028】

本考案を実施するための最良の形態として、以下の実施例につき、図1～図3を参照して説明する。

20

【実施例】

【0029】

本考案の一実施例に係る麺流し装置は、例えば、図1～図3に示すように、その外形が略角柱体に骨組みされた架台1と、該架台1に内装された水循環装置10と、該架台1に支持された円環状の麺流し容器30と、後述する架台1の受け皿8に載置されると共に、麺流し容器30の中央部に位置した焜炉40とから構成されている。

【0030】

架台1は、平面視四角形状の仮想線の四隅に配設された縦支柱2、…と、各縦支柱2、…の上端部を連結した上横支柱3、…と、上横支柱3、…の上端部に固着された環状の支持板4と、各縦支柱2、…の下端部を連結した下横支柱5、…と、該下横支柱5、…に敷設された平面視四角形状の底板6と、各縦支柱2、…の上部に「井」の字形状に架設された補助支柱7、…と、各補助支柱7、…が交差した平面視四角形状の開口部に設けられた受け皿8と、各縦支柱2、…、各上横支柱3、…、各下横支柱5、…によって形成された側面視四角形状の側面開口部にそれぞれ着脱可能に装着された側面板9、…とを具備している。

30

【0031】

受け皿8は、各補助支柱7、…が交差して形成された開口部よりもやや大きい四角形状を呈している。さらに、上述したように、受け皿8には、焜炉40が載置されている。

40

【0032】

水循環装置10は、架台1の底板6の右側に載置された直方体形状の水溜め槽11と、該水溜め槽11の上面開口部に開閉可能に設けられた蓋体12と、該蓋体12の上面に取り付けられた濾過器としての濾過槽13と、該濾過槽13の上面開口部を閉塞した蓋板14と、上端部が後述する麺流し容器30の排水レーンBに連通すると共に、下端部が濾過槽13の蓋板14に貫設された連結管15と、濾過槽13の底部、及び、水溜め槽11の上板に貫設された連通管16と、水溜め槽11の底面に設置された濾過器としてのストレーナ17と、架台1の底板6の左側に載置されたポンプ18と、上端部が後述する麺流し容器30の麺流しレーンAに連通すると共に、下端部がポンプ18に接続された給水管19と、該給水管19に設けられた切換バルブ20、及び、その分岐管19aに設けられた

50

切換バルブ 20 a と、一端部がポンプ 18 に接続されると共に、別端部が架台 1 の底板 6 から外部へ導出された排水兼吸水管 21 とを備えている。

【0033】

なお、給水管 19 の分岐管 19 a に設けられた切換バルブ 20 a には、架台 1 の底板 6 から外部へ導出されたホースが接続されている（図示せず）。また、排水兼吸水管 21 の別端の開口部には、排水バルブ 25 が設けられている。さらに、排水兼吸水管 21 の別端側の導出部から分岐された分岐管 26 は、架台 1 の底板 6 を貫通してストレーナ 17 の底部に連結されている。

【0034】

そして、水溜め槽 11 と麵流し容器 30 との間で循環水路が形成されている。この循環水路は、水溜め槽 11、分岐管 26、排水兼吸水管 21、ポンプ 18、給水管 19、ノズル、麵流しレーン A によって構成された循環用給水路と、排水レーン B、連結管 15、濾過槽 13、連通管 16 によって構成された循環用排水路と、排水レーン B、連結管 15、濾過槽 13、連通管 16、水溜め槽 11、分岐管 26、排水兼吸水管 21 によって構成された外部排水路とから構成されている。 10

【0035】

さらに、水溜め槽 11 の内面、及び、水溜め槽 11 の蓋体 12 の内面には断熱板 22 が貼着されている。加えて、水溜め槽 11 の蓋体 12 には、L 字形状の取手 23 が取り付けられている。

【0036】

また、濾過槽 13 の内部には、複数枚のウールマットからなる濾過材 24 が積重されている。 20

【0037】

給水管 19 の上端開口部は、後述する麵流し容器 30 の排水レーン B の下方に位置し、後述する麵流し容器 30 の麵流しレーン A に形成された複数の給水口 27、…に連結されている。

【0038】

麵流し容器 30 は、円環状の底板 31 と、該底板 31 の外周及び内周に同心円状に立設された側板 32、33 と、両側板 32、33 の間に同心円状に立設された仕切板 34 とを具備している。そして、外周の側板 32 と仕切板 34 とで外周側の麵流しレーン A が形成されると共に、仕切板 34 と内周の側板 33 とで内周側の排水レーン B が形成されている。さらに、麵流し容器 30 の中央部において、内周の側板 33 により焔炉 40 の設置スペースが確保されている。加えて、麵流し容器 30 の外側には、環状のテーブル 41 が、架台 1 の支持板 4 に支持されている。 30

【0039】

加えて、麵流し容器 30 の外周の側板 32 の高さが最も高く、次いで内周の側板 33 が高く、仕切板 34 が最も低くなっている。これは、麵流しレーン A からの水が排水レーン B において容易に排水できるようにすると共に、麵流しレーン A から水が溢れ出ないようにし、さらに、排水レーン B からの排水が内周の側板 33 を越えて焔炉 40 の設置スペースに浸水しないようにするためである。 40

【0040】

また、麵流し容器 30 の仕切板 34 の上縁部には、麵流しレーン A から水を排水レーン B へ導水させるための複数のスリット 35、…が形成されている。さらに、仕切板 34 の一部には、開閉可能な排水ゲート 36 が形成されている。該排水ゲート 36 は、円弧状の開閉板 37 と、仕切板 34 の一部に形成された排水口 38 と、仕切板 34 の排水口 38 の周縁部の両側にそれぞれ固着された複数個のガイド 39、…とを具備している。そして、開閉板 37 はガイド 39、…によって挿脱可能に設けられて排水口 38 を開閉する。

【0041】

さらに、麵流しレーン A には、麵流し容器 30 において直交する二本の中心線上に、断面直角三角形状のジャンプ台 45、…が複数配設されている。このジャンプ台 45、…に 50

は、還流する水流の方向に対して若干上向きな傾斜面４６，…が形成されており、この傾斜面４６，…によって、流動する麺が、水面に押上げられてすくいやすくなる。さらに、ジャンプ台４５，…の下流側には、給水口２７，…が近設して穿設されている。

【００４２】

そして、各給水口２７，…は、複数の配管エルボ４７，…、及び、直線状の配管４８，…によって上述した給水管１９の上端開口部に連結されている。加えて、各給水口２７，…には、環状のゴムパッキン４９，…が装着されると共に、各ゴムパッキン４９，…の開口部には、ノズル５０，…が嵌入されている。

【００４３】

該ノズル５０は、上下方向の嵌入部５１と、断面が台形状の給水部５２とから構成されている。さらに、ノズル５０の嵌入部５１から給水部５２にかけて、上下方向の大径の給水路５３が形成されている一方、給水部５２には、小径の水平方向の給水路５４が形成され、両給水路５３，５４が連通している。 10

【００４４】

加えて、ノズル５０の給水部５２は、その断面が台形状であるため、傾斜部５５を有している。この傾斜部５５は、ジャンプ台４５によって水面近くに押上げられた麺の流動を維持する役目を担っている。また、ノズル５０の嵌入の際、傾斜部５５を有するノズル５０の給水部５２の端部がジャンプ台４５の押さえの役目をも担っている。

【００４５】

焔炉４０は、上面開口部の形状が円形状で、しかも、該上面開口部に向かうにしたがって開口面積が大きくなっている。さらに、焔炉４０は、上述したように架台１の受け皿８に載置される。 20

【００４６】

つぎに本考案の麺流し装置の使用態様について説明する。まず、麺流し及び鍋料理をする場合、麺流し装置の架台１の受け皿８に焔炉４０を予め載置しておき、続いて、排水バルブ２５を閉じた状態にすると共に、給水管１９の切換バルブ２０を開いた状態にした後、ポンプ１８を作動させると、水溜め槽１１の水が給水管１９、麺流しレーンＡの給水口２７，…、ノズル５０，…を介して麺流し容器３０の麺流しレーンＡに給水が行われ、ノズル５０，…からの噴流によって麺流しレーンＡにおいて還流が生成される。

【００４７】

この状態で、素麺や冷麺などの麺を水に挿入すると、麺が水流によって麺流しレーンＡを流動する。そして、焔炉４０に火をつけて食材の入った鍋をセットすれば、麺を食すると共に、鍋料理も楽しめる。 30

【００４８】

この際、麺流しレーンＡからの水が、仕切板３４を越えたり、仕切板３４のスリット３５，…を通ったりして排水レーンＢに流出することになるが、排水レーンＢ、連結管１５を経て濾過槽１３、連通管１６を通った後、水溜め槽１１に戻され、再度、ストレーナ１７で濾過された水が、ポンプ１８に吸い上げられて、排水兼吸水管２１、給水管１９を経て麺流しレーンＡに給水される。よって、水溜め槽１１の水から麺流しレーンＡに、麺流しレーンＡから排水レーンＢに、排水レーンＢから水溜め槽１１に循環されることになるが、循環水路の二箇所（濾過槽１３及びストレーナ１７）において濾過されるため、水の汚れが少なく衛生的である。 40

【００４９】

なお、麺流し容器３０の内周の側板３３の高さが仕切板３４の高さよりも高くなっているため、排水レーンＢからの水によって焔炉４０の設置スペースが水浸しになることはなく、焔炉４０の燃焼には支障をきたさない。

【００５０】

つぎに、食後、麺流しレーンＡの水を外部に排水する場合、ポンプ１８を停止させ、給水管１９の切換バルブ２０を閉じた状態にすると共に、給水管１９の分岐管１９ａの切換バルブ２０ａを開いた状態にし、さらに、排水バルブ２５を開いた状態にする。そして、 50

仕切板 3 4 の排水ゲート 3 6 の開閉板 3 7 を開くと、麺流しレーン A から排水レーン B に導水された水が、排水レーン B の排水口 3 8、排水兼吸水管 2 1 を介して濾過槽 1 3 を通って水溜め槽 1 1 に流出し、さらに、水溜め槽 1 1 のストレーナ 1 7 を通った濾過水が外部に排水される。よって、環境に悪影響を及ぼすことなく排水できる。また、給水管 1 9 に残留する水は、分岐管 1 9 a、図示しないホースを介して外部へ排水される。

【0051】

また、麺流し装置の麺流しレーン A、排水レーン B、濾過槽 1 3、濾過槽 1 3 の濾過材 2 4、水溜め槽 1 1、ストレーナ 1 7、各種配管 4 7、4 8 は全て分解可能で、且つ、洗浄可能である。

【0052】

このように、本考案の麺流し装置は、分解組立てが簡単で、一般家庭の庭先、或いは、屋外でのキャンプなどにおいて誰もが容易に楽しめる。

【0053】

なお、前記実施例の場合、麺流し容器 3 0 に給水される水は、特に限定されるものではなく、氷水などの冷水や湧き水のいずれであってもよい。また、湧き水を使用する場合には、ポンプ 1 8、水溜め槽 1 1、濾過槽 1 3 を取り外して使用することもできる。

【産業上の利用可能性】

【0054】

本考案の麺流し装置は、一般家庭の庭先や屋外で、素麺、うどんなどの麺流しと、焼肉、焼魚などのバーベキューとを同時に行う場合に有効に利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0055】

【図 1】本考案の麺流し装置の側断面図である。

【図 2】(a) は、図 1 の平面図、(b) は、麺流しレーンの排水ゲートの部位を拡大した図である。

【図 3】図 1 (a) の S-S 線断面図であって、ジャンプ台及びノズルの取付部位の拡大断面図である。

【符号の説明】

【0056】

- 1 架台
- 2 縦支柱
- 3 上横支柱
- 4 支持板
- 5 下横支柱
- 6、31 底板
- 7 補助支柱
- 8 受け皿
- 9 側面板
- 10 水循環装置
- 11 水溜め槽
- 12 蓋体
- 13 濾過槽（濾過器）
- 14 蓋板
- 15 連結管
- 16 連通管
- 17 ストレーナ（濾過器）
- 18 ポンプ
- 19 給水管
- 19 a、26 分岐管
- 20、20 a 切換バルブ

10

20

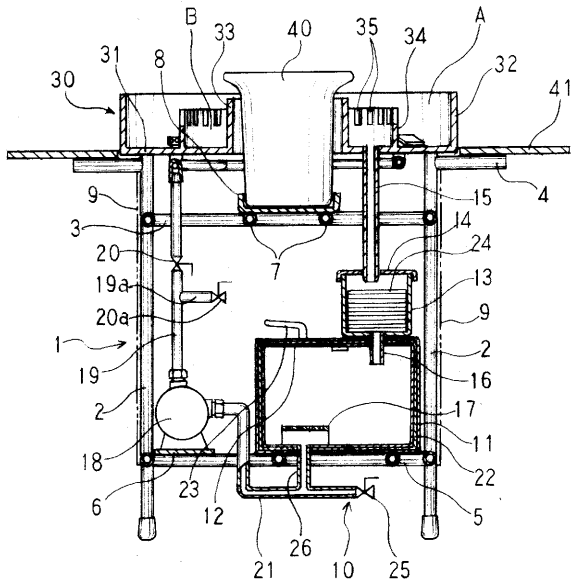
30

40

50

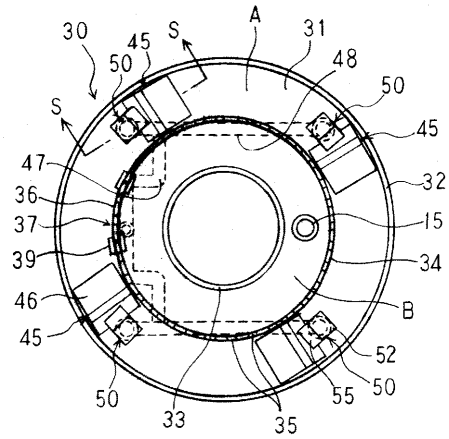
2 1	排水兼吸水管	
2 2	断熱板	
2 3	取手	
2 4	濾過材	
2 5	排水バルブ	
2 7	給水口	
3 0	麵流し容器	
3 2、3 3	側板	
3 4	仕切板	
3 5	スリット	10
3 6	排水ゲート	
3 7	開閉板	
3 8	排水口	
3 9	ガイド	
4 0	焔炉	
4 1	テーブル	
4 5	ジャンプ台	
4 6	傾斜面	
4 7	配管エルボ	
4 8	配管	20
4 9	ゴムパッキン	
5 0	ノズル	
5 1	嵌入部	
5 2	給水部	
5 3、5 4	給水路	
5 5	傾斜部	
A	麵流しレーン	
B	排水レーン	

【図 1】

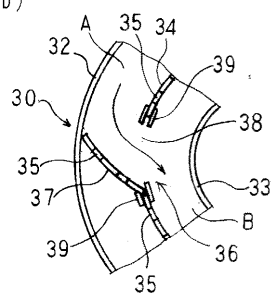


【図 2】

(a)



(b)



【図 3】

